

平成16年度第1回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

1 日 時 平成16年5月18日(火)13:30~15:00

2 場 所 保健福祉会館 9階 大会議室

3 出席者 委員8名

4 傍聴者 2名

5 会議の概要 市立養護老人ホームのあり方について

6 主要な意見

・そもそも養護老人ホームは国の基準の介護スタッフの数がずいぶんと低めである。今後は手の掛かる人がどんどん増えてくるだろうし、今の現状の基準でケアの質が保てるかどうか疑問である。

・ショートステイはほとんど利用されていないようだが、介護認定をされている人は入れないということでそもそもニーズがないのか、それとも施設の受け入れ体制の問題なのか疑問である。

・3園とも夕食時間が5時だが、利用者のニーズからはかなり隔たっているのではないかと。早急に改善をしていくべきではないか。

・岡山市の老人人口や要支援老人の数が今後3,40年単位でどのように変わっていくのか把握しておく必要があるのではないかと。

・介護保険との関わりなしに老人福祉は語れないし、特養、グループホームなど施設全体の収容数を議論しつつ養護老人ホームの議論を行う必要がある。

・要支援、要介護の方が70%くらい入っているように思われるが、その方々が終(つい)のすみかとなると、特養とどのように中身が変わってくるのか。論理的な分け方も必要になると思われる。

・地方財政が脆弱になっている中で、金銭的な費用の問題も含めて議論していく必要があるのではないかと。